

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
希少がん診療・相談支援におけるネットワーク構築に資する研究
（分担研究報告書）

「希少がん中核拠点センターの整備（近畿地方）・全国ネットワーク構築のための研究」

研究分担者 松浦 成昭 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター 総長

研究要旨

近畿地方の希少がん中核拠点センターとして、大阪国際がんセンターの希少がんセンターは他地域および中央（国立がん研究センター）の中核拠点センターと希少がんホットライン会議、一般市民への広報活動である希少がんMeet the Expressを通じて、連携体制を構築することができた。

大阪府の希少がん診療体制については、大阪府がん診療連携協議会に設置した希少がん部会の活動により、連携体制の基礎が築かれた。近畿地方については、希少がん携働協議会を設置し、今後の希少がん連携体制の核を作ることができた。

A. 研究目的

本研究は、専門的な医療の提供可能な施設に限られる希少がんに関して、全国の希少がん患者が適切な医療へ繋がることのできるよう、全国の7地区に整備される希少がん中核拠点センターの1つとして近畿地方の整備を行う。また、全国ネットワークを構築し、希少がん患者が住み慣れた地域で相談支援を受け、納得のゆく適正な希少がんの診療、さらに高度かつ専門的な医療に繋がることのできる体制を構築するための研究を行う。

B. 研究方法

1, 大阪国際がんセンター希少がんセンターと他の中核拠点センターとの希少がんホットライン共通手順の策定およびその他の連携事業

2, 大阪府内の希少がん診療施設との連携構築・情報共有

3, 近畿地方各府県の都道府県がん診療連携拠点病院との間で、希少がんネットワーク構築のための連携の推進

（倫理面への配慮）

患者・個人を用いた研究ではないので、倫理面への配慮事項は特になし

C. 研究結果

他の中核拠点センターといっしょに4/15（月）、7/22（月）、10.21（月）、1/20（月）に全国希少がんホットライン会議を実施して、希少がんホットライン共通マニュアル、希少がんホットライン共通データベースについて策定に向けて意見交換を行った。また、国立がん研究センターが行っている一般市民への広報活動「希少がんMeet the Expert」の運営に協力し、第36回の肉腫（サルコーマ）の講演を当センターが担当するとともに、第37回「地域の希少がんを支える」に現地参加し、ディスカッションを行った。

大阪府のがん診療拠点病院 66 病院から構成される大阪府がん診療連携協議会の下に希少部会を設置し、希少がんの連携体制を推進した。

近畿地方の6府県（大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県）の都道府県がん診療連

携拠点病院で「近畿希少がん連携協議会」を設立し、近畿地方での希少がん連携体制の構築に関して意見交換を行った。また、がん相談支援センターの担当者間の打合せの会議を行い、次年度からの活動に向けての体制整備を行った。

D. 考察

他の中核拠点センターとの間の全国希少がんホットライン会議は今後の連携に向けてのベースになり大変有用であった。また、希少がんMeet the Expertの企画を通して、希少がん分野の専門家とのつながりができて、今後の連携体制構築に有用であった。大阪府内の希少がん連携は大阪府がん診療連携協議会希少がん部会が、近畿地方の希少がん連携は希少がん連携協議会が、それぞれ中心的な役割を果す体制が作られた。

E. 結論

他の中核拠点センターと行った全国希少がんホットライン会議、国立がん研究センターの希少がんMeet the Expertの企画は今後の連携に大変有用であった。また、大阪府がん診療連携協議会希少がん部会を通じて、今後の大阪府の希少がんの連携体制構築の礎ができた。近畿地方の都道府県がん診療連携拠点病院との間で近畿希少がん連携協議会を設立したので、次年度、体制整備を進める。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

松浦成昭：次世代のがんプロフェッショナル養成プランへの期待(1)がんプロの果たしてきた役割と今後の課題、腫瘍内科 35:115-120,2025,

2. 学会発表

田口賀子、大植雅之、角永茂樹、屋木俊也、北坂美津子、池山晴人、山根康子、中川嘉代、松岡和重、石川淳、松浦成昭：希少がんホットライン相談からみる肉腫診療の現状、第8回日本サルコーマ治療学会、札幌市、2025(2)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
特記事項なし